

令和7年度 植田中学校学力向上プラン（グランドデザイン）

植 中 プ ラ イ ド

生徒の実態・課題

- ・学習意欲が低く基礎基本の定着が不十分な生徒が一定数見られる。学ぶ喜びを感じられる生徒主体の授業の工夫に加え、家庭学習を含め基礎基本を定着させる場の確保が必要がある。
- ・話し合いや交流を通して自分の考えをもったり、自分の考えを周りに伝えたりすることに不慣れである。
- ・タブレットの活用や文字入力を苦手とする生徒がいる。
- ・「規範意識・真面目風土」は高いが、主体性に欠け自己肯定感も低い。

教 育 目 標

- 真の学力を身につけた生徒
- 豊かで素直な心情に満ちた生徒
- 体力と気力を備えた生徒

保護者の願い

- ・自分で目標をもって主体的に学習に取り組むことができる。
- ・他人に対して思いやりの気持ちをもち、より良い人間関係を築くことができる。
- ・問題や困難にぶつかっても、一生懸命に努力し困難を乗り越えることができる。

【研究主題】 確かな学力をもった生徒の育成

《副 主 題》 各教科の特質に応じた副主題を設定し研究主題に迫る

目指す教師像

- 1 幅広い教養
- 2 豊かな人間性
- 3 教育愛
- 4 高い研修意欲と使命感
- 5 専門的な指導力
- 6 生徒との信頼

【研究の見通し】

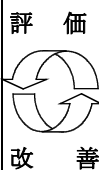
- 上位・下位の二極化が見られ、上位を伸ばすとともに下位への基礎基本の定着が課題であり「個別最適な学び」を教科の特質に応じて工夫する必要がある。
- 生徒の興味・関心を高め目的意識をもった主体的な学びの実現に向け、授業の導入の工夫が必要である。
- 各教科の学習において、「自分の考えをまとめる活動や考えを交流したり発表したりする活動」を多く取り入れていくことで、考える力や表現する力を高めていくことができるだろうと考える。

求める授業像

- 1 わかる授業
- 2 学ぶ意欲につながるめあての設定
- 3 考え表現する場の確保
- 4 まとめと振り返りの時間の確保
- 5 個別最適な学び
- 6 ICTの効果的活用

評 価

- ・問題の工夫と活用
- ・評価場面の設定と評価方法の工夫
- ・目標や評価規準に準拠した評価
- ・「学びに向かう力・人間性」等の情意面の評価
- ・「知識・技能」習得の程度の評価
- ・「思考力・判断力・表現力」等の過程の評価
- ・自己肯定感等の非認知能力の評価
- ・家庭学習等の自己調整力の評価
- ・相互評価や自己評価の方法と活用



授 業 改 善

- ・ノーチャイムによる授業
- ・基本的な学習習慣の定着
- 【学習用具の持参、話す・聞く・書く・考えるのメリハリ】
- ・学ぶ意欲をかき立てるめあての設定
- ・「考える・表現する」場の設定
- ・「まとめ・振り返り」の時間確保
- ・ICT機器を効果的に活用する授業
- ・個に応じた学習課題【基礎・基本の学習、発展的学習】
- ・個を生かす学習形態【A 学習、グループ学習】
- ・体験的な活動を取り入れ、主体的に課題解決に向かう学習過程の工夫
- ・生徒による授業評価



校 内 研 修

- ・各教科における生徒の実態調査と成果、課題の検討
- ・年間指導計画の作成と改善
- ・単元ごとの評価規準の作成
- ・評価についての共通理解
- ・教師全員による研究授業
- ・研究授業の事前・事後研究会
- ・各種テスト結果の分析と課題検討
- ・校外研修会への積極的な参加
- ・ICTサポーターによるICT活用研修
- ・研究のまとめと研究集録作成

評 価 ↑ ↓ 改 善

評 価 ↑ ↓ 改 善

主要5教科における手だて(◎指導の重点)

国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 計画的、継続的な漢字学習（ミライードの活用） ◎ 短作文指導と長文プリントによる読解力の向上 ・辞書の活用 ・文法豆テストの実施 ・家庭学習プリントの配付と評価 ・ノート指導、ワーク指導 ・授業の中に話し合いの時間を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ まとめと振り返りの時間の確保 ◎ 単元プレテスト ◎ 観点別評価表の活用 ・毎時間の予習、復習 ◎ ICT 機器や視聴覚教材の活用 ◎ ミライードのドリルパークの活用 ・表現する時と場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ミライード、ドリルパークの活用 ・毎時間の計算練習の時間確保 ◎ ベア、グループ学習など個を活かす学習形態の授業 ・ノートやワークの点検 ◎ ICT 機器の活用 ◎ まとめ、振り返りの時間確保 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 観察や実験の時間の確保と技能の習得 ・ワークシートや ICT 機器、視聴覚教材の活用 ・パフォーマンステスト ◎ 基本事項の反復学習と小テストの活用 ◎ 単元テストによる習熟度の確認 ・宿題の提示、家庭学習 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ コミュニケーション活動の充実 ・パフォーマンステストの実施 ・発表の時間の確保 ◎ 毎時間の予習、復習 ・ノートの作り方指導 ・ワーク活用の指導 ◎ 単元テストによる語彙力アップ ◎ ミライードのドリルパークによる反復学習の実施
<ul style="list-style-type: none"> ・授業スタンダードの活用 ・家庭学習スタンダードの活用 ・基礎学力の定着 ・生徒による授業評価 ・朝の読書 ・学習環境の整備 ・授業での学習訓練の徹底 ・思考・表現する場の確保 ・まとめと振り返りの時間確保 ・主体的な学習活動を推進するための学習形態の工夫 ・ICTの効果的活用 ・タブレットの日常的活用 ・各種検定、コンクールへの積極的な参加 ・発問、板書、ノートの指導 ・家庭学習の習慣化 ・全国学力学習状況調査の分析と授業改善 ・ふくしま学力調査の分析と授業改善 ・ふくしま活用力育成シートの活用 				

植田中の到達目標

- 授業の準備物の持参率や課題（宿題など）提出率を90%以上にする。
- 家庭における学習の実施率を90%以上にする。
- 5教科のICT機器の使用率を100%にする。
- ふくしま学力調査の経年比較で、5教科全てで上昇傾向を示す。（現状より上へ）